

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホーム あいあるみすまい		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目8-33 (電 話) 011-596-3010		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月11日	評価確定日	平成21年12月25日

【情報提供票より】(21年 11月 26日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 1月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11人、 非常勤 7人、 常勤換算 15.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:18,000円 暖房代:10,000円(11月-3月)
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 40,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(11月 26日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	4 名	要介護 2	5 名
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 71 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院、さくら歯科南クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあいあるみすまいは自然に恵まれた環境に位置し、バス停から1分と交通も便利である。地域との交流が盛んで、事業所で毎年主催する「納涼祭」には地域の方々を招待し、職員の家族等多数参加してバザーやゲームなどの催しを楽しんでもらっている。町内会も非常に協力的で、事業所の行事には用具を貸し出してくれるなど多くの支援をいただいている。運営者は職員の意見を取り入れ業務改善や職員教育にも熱心に取り組んでおり、管理者も職員ともどもケアサービスの改善に積極的である。利用者は表情が豊かで、明るくゆったりと毎日の生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は、即日検討し、できるものは直ちに実施するなど積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者は、自己評価を実施する意義について職員全員に説明している。職員全員に自己評価項目を検討してもらい管理者がまとめている。職員は、自己評価を日常の業務を客観的に見つめる良い機会ととらえている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議では報告事項や行事予定、外部・自己評価などを議題に、行政担当者からの情報提供もあり、会議での意見をサービス向上に生かしている。議事録も整備されている。今後は、会議の開催回数を増やし、地域の方が多数参加できるよう検討していくことが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族等が訪問の際、意見や不満等を話してもらっている。玄関に提案箱を設置しているが、最近あまり利用されていないので、今年は家族宛てにアンケートを実施し、寄せられた意見をサービス向上に反映させた。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会の草刈りや清掃、夏・秋の祭りには積極的に参加している。町内会には事業所近くにゴミステーションを新設してもらったり、行事の際もテントを借してもらうなどの協力をいただいている。また、事業所で毎年主催する「納涼祭」には地域の方々を招待し、事業所内も見学してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年5月に全職員で話し合い、開設当時の理念に地域密着型サービスとして果たすべき役割を反映した内容の理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関やスタッフルーム、事務所などに掲示されている。また、タイムカードの設置場所に理念が貼ってあり、毎日、自己評価表に理念に基づいたケアができたかどうかを、個人ごとに○×をつける仕組みとなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の草刈りや清掃、夏・秋の祭りには積極的に参加している。町内会には事業所近くにゴミステーションを新設してもらったり、行事の際もテントを借してもらうなどの協力をいただいている。また、事業所で毎年主催する「納涼祭」には地域の方々を招待し、事業所内も見学してもらっている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義について職員全員に説明している。外部評価については殆どの項目が改善されている。自己評価は職員全員に項目を検討してもらい、管理者がまとめていく。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1度実施し、報告事項や行事予定、外部・自己評価などを議題にし、行政担当者からの情報提供もある。会議での意見はサービス向上に生かされており、議事録も整備されているが、町内会長以外に地域の参加者がいない。	○	運営推進会議開催を2ヶ月に1度と増加させることと、民生委員など地域の方々への参加の呼びかけを検討することを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困ったときや問題が生じたときは区と連絡を取り運営上の相談をしており、行政の担当者には運営推進会議にも参加してもらっているが、積極的に連携を取るまでには至っていない。	○	通常から機会のあるごとに、市区の担当者と連絡を取り、積極的に連携していくことを期待したい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時に利用者の状況を報告し、必要時には電話をしている。ホーム便りと、金銭出納明細書に領収書を毎月郵送している。前回の外部評価の取り組み事項であった職員の退職の報告も広報に掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問の際、意見や不満等を話してもらっている。玄関に提案箱を設置しているが、最近はまだあまり利用されていないので、今年は家族宛てにアンケートを実施し、寄せられた意見をサービス向上に反映させた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職の際は、利用者の性格や気性に合わせて判断し説明している。職員は特別な担当を決めず、どの利用者にも関わられるようにしている。退職の際のダメージは少ない。現在、法人間の定期異動はないが、今後は職員の技術向上を目的とし実施することを検討している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人で合同の内部研修を定期的実施しているほか、ユニットごとのフロアー会議の後に、毎月ではないが課題を決めて勉強会を行っている。外部研修にも年に数人を受講させているが、自己負担で参加する職員も多い。現在、運営者が職員ごとの教育プログラムの実施を計画している。	○	職員ごとの教育プログラムの実施を計画しているとのことであり、その実現に期待したい。
11	20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人や地域の勉強会・研修会などで他の事業所の職員と交流するように努めている。区の管理者会議では、会議の場での交流はあるが、他の事業所を訪問し合うなどの取り組みは行っていない。	○	管理者会議を通じて知り合った管理者同士で話し合い、お互いの事業所を訪問し合うなどの働きかけをしていくことが期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人及び家族等に必ず面談し、顔馴染みの関係を作っている。入居してからは、家族に頻りに訪問してもらったり、食事の際は相性が良いと思われる利用者の隣に座ってもらったり、職員が他の利用者に紹介するなど馴染みやすい環境を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に、諺や行事の料理を教えてもらったりしている。また、利用者に「ありがとう」「お疲れ様」とねぎらってもらうなど職員が支えられる場面が多い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや家族等から得た情報をもとに、職員間で利用者の思いについて話し合っている。特に入浴の際は、利用者と職員が一对一で向かい合える良い機会なので、時間に余裕を取り、希望や意向を聞き出すようにしている。その情報は記録し全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時は、家族等からの情報、管理者、介護支援専門員、リーダーで暫定的な介護計画を作成し、1ヶ月以内を目途に職員の意見を聞きながら見直し、本計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的に3ヶ月ごとの見直しをしている。入院や日常生活に変化が見られた時は利用者に応じて随時計画の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り、利用者の希望に応じて買い物や外出、医療機関への付き添いなどの支援を行っている。古本屋やビデオのレンタルショップに行くこともある。家族等の来訪時には、希望があれば食事を提供している。月1回の訪問理美容のサービス対応も行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が月2回訪問診療をしてくれるが、利用開始前のかかりつけ医の継続は可能である。医療機関への通院は職員が同行し、家族等には情報を伝えている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応にかかる指針及び同意書」を利用開始時に家族等や利用者に説明し捺印を得ている。看取りに関しては、家族や本人の意向を確認し、医療関係者と施設長、管理者が随時話し合い方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に呼ばれた時は必ず傍に行って話を聞き、親しく呼びかけはするが名前を「ちゃん」付けで呼ばないなど本人の誇りを傷つけないよう配慮している。個別記録などは事務所やスタッフルームで保管し、面会カードも個別式にするなど情報の取り扱いに配慮している。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や体操など基本的な生活の流れはあるが、利用者の状況に合わせてそれぞれのペースで過ごせるように配慮している。好きなテレビ番組の時は入浴時間を変更し、目覚めの時間により朝食時間をずらすなど臨機応変に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況や身体能力に応じて、食事の準備や下膳、後片付けを職員と一緒にやっている。献立は法人の栄養士が1ヶ月ごとに作成しているが、毎週月曜日の夕食は自由献立にして、利用者の好みや職員のアイデアを取り入れたメニューにしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の15:30～17:30の間に、最低週2回以上入浴できるように配慮している。希望すれば毎日でも入浴可能である。入浴を拒否する利用者には入浴剤などを用意し、楽しみながら入浴できるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、調理や後片付け、新聞を取りに行く、日めくりカレンダーの日付を変えるなどそれぞれが役割を持っている。また、塗り絵やカラオケ、読書、DVD鑑賞など趣味の活動やドライブ、外食などを楽しんでいる。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の天気の良い日は毎日散歩できるほか、保養施設や大型ショッピングセンター、室内パークゴルフ場に行ったり、イルミネーションの見学など月2回程度車で外出している。冬季は外出の機会が少なくなるので、外気浴や週2回の車での買い物に同乗したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入口ドアに開閉時に音がなるような工夫をして日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出しようとした時は、制止せず、声をかけながら一緒に出かけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は、4月に消防署の協力の下、消火、通報などの避難訓練を行い、10月には出火場所の想定を変更して利用者と共に自主訓練を行っているが、地域への協力依頼はまだ行われていない。	○	前年に引き続き、運営推進会議で災害時の地域の協力体制を依頼していくことを期待したい。また、定期的に職員が救急救命訓練を受講することを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事と水分の摂取量を記録して適切な対応ができるようにしている。法人の栄養士が毎月各事業所の職員代表と共に食事会議を行い、利用者の栄養状況に配慮しながら献立を立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感を感じさせる手作りのクリスマスツリーや装飾品が飾られ、居間には利用者が気軽に腰掛けたり寝転んだりできる畳のコーナーと、レースのカーテンで程良く採光が調整されている大きな窓があり、落ち着いた中にも温かな雰囲気工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや鏡、人形など利用者の馴染みの物や好みの物が持ち込まれている。また、濡れたバスタオルが掛けられ湿度調節がなされるなど職員の細やかな配慮があり、居心地良く過ごせる場所となっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。